

# 世界初！2足歩行ロボットによる格闘技大会



## こんなロボコンが見たかった！ これが第1回ROBO-ONEだ！

あさの じゅんや  
浅野 純也 (ライター)

### 参加者もお客も楽しめる イベントとして

2月2日と3日の2日間、東京江東区お台場の日本科学未来館において第1回「ROBO-ONE」が開催された。ROBO-ONEは究極のロボットコンテストとして本誌もその企画当初から参加したイベント。従来のロボコンよりもさらにエンターテインメント性を強め、参加者と観客の両方が楽しめるものを目指している。そのために2足歩行ロボットというもっとも最先端の技

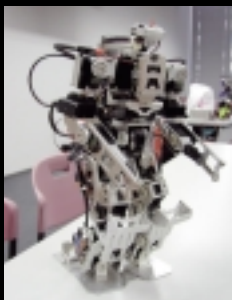
術を駆使するチャレンジングなテーマを選択、世界初の2足歩行ロボットによるロボコンが生まれることになった。

ROBO-ONE 競技規則前文より～

ROBO-ONEの目的は、「ロボットの楽しさ」をより多くの人に広めることである。観客がロボットや試合を楽しむことができ、参加者の意欲を掻き立てるロボット競技を目指す。そのため、試合の勝ち負けよりも技術的な素晴らしさやエンターテインメント性を重視する。

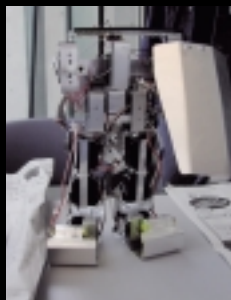
ROBO-ONEのそもそもの始まりは、バトルボッツなど幅広くロボコンに参加している西村ロボットクラブ内で2足歩行ロボットによる競技ができないかと検討し始めたのが最初だ。米国にはラジコン操縦によるバトルボッツというデスマッチ競技があるが、参加者も観戦者も実にアツくなれるのが特徴。もちろんヘビー級のロボット同士が肉弾戦を行う迫力も魅力のうちで、そんな「アツい」イベントができないかという希望があったのだという。そしてこのアイデアに賛同する企業や個人らの協力を得て「ROBO-ONE委員会」が発足、競技用ロボットの販売で知られるベストテク

### エントリー一覧 (予選当日に会場に持ち込まれたロボットのみ。欠番は不参加ロボットのもの)



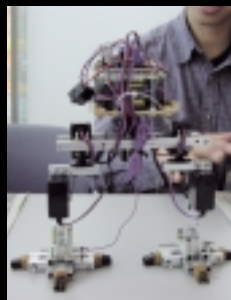
エントリー01  
R-BlueIII  
吉村浩一さん

完成度の高さで一置かれた機体。かねてから研究していた2足歩行ロボットの集大成。当初は変形機構も考えられていたが、今回はオミットされた。身長38cm、32自由度を持つ。予選1位。



エントリー02  
Petapy  
大越信明さん

4自由度を持つヒューマノイド。盾と攻撃用の剣を装備している。注目は今大会唯一の「復帰機能」前に倒れた場合は盾を持った腕を使って起きあがることのできる。音声認識によるコマンド入力によって動く。予選6位。



エントリー03  
MK-2IR-2  
増淵裕介さん

逆関節型の脚が特徴。映画「STARWARS」の子キンウオーカーを思わせるユニークな歩行スタイルも独特。脚首の構造や2つのサーボだけの機構もユニークだ。予選13位。



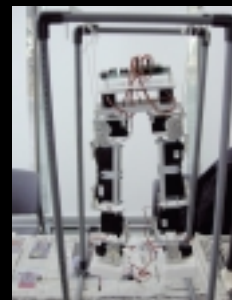
エントリー04  
RC-GUNDAM  
松本大輔さん

超小型サーボモータを全身に内蔵している。ガンダムプラモをほぼそのまま流用。プロポーションもいじっていないが、本格的な歩行が可能。注目度も高かった。予選4位。



エントリー05  
スケルトンヒデ 1/3  
小林浩さん

四肢は動くが制御系が間に合わず未完成のままのエントリー。開場では固定フレームに取り付けられたままデモを行った。頭部はPC用マウスを使用している。予選25位。



エントリー06  
スケルトンヒデ 1/2  
小林浩さん

より大きなサイズのヒューマノイドを目指したその下半身部分だけがエントリー。予選は棄権した。